

「立ち上がる農山漁村」選定案概要書

取組分野：【交流】【女性・若者の力】

1. 都道府県、市町村 山口県^{やまぐちし}山口市
2. 事業者名 NPO法人学生耕作隊
3. 取組みの名称 若者とシニアが広げる農業・農村の活性化！！
4. 取組概要等

概要

山口大学の学生にアンケートを行ったところ、3人に2人が農業に関心があるというデータが得られた。低い食料自給率や増える荒廃農地を抱える日本の農業・農村の衰退という現状を打破すべく、**農業に関心があり、農業・農村の活性化に向け集まった約30名の学生有志とともに、平成13年1月、任意サークル「学生耕作隊」を結成**。人手不足の農家に学生を派遣するとともに、耕作放棄地を守る活動が始まった。同年9月にはNPO法人化を行う。

農業に関心のあるすべての人々に対して、援農に関する事業や、農業体験の場づくりに関する事業を行い、農業・農村の活性化を目的として、以下の5つを主に行っている。

- 農家の人材不足の解消に関する事業
- 農地荒廃の防止に関する事業
- 農業体験の場づくりに関する事業
- 農業・農村の活性化に関する学習、啓発事業
- 農業・農村の活性化に関する広報事業

当初メンバーは約30名の学生だったが、現在は50名のシニアと150名の学生が登録し、3名の山口大学学生を中心に学生事務局を組織し、運営する。

人材不足に悩む農家に隊員を有償で派遣し、農家は報酬として1時間当たり500円程度、あるいは農産物の有償活動費を隊員に支払い、事務局に運営費を支払う。活動がシニア層にも拡大し、4年間で約6,000人の大学生・シニアの人々が援農に出向いている。

援農だけでなく、農地と景観の保全を目的に、山口県宇部市小野の茶園の生産管理も行い、耕作放棄される予定だった荒れ茶園を、**プロである農家にアドバイスを受けながら、定期的に管理作業を素人である学生たちが行い、農地と景観の保全に寄与している。**

本隊から大学院修了後に学生が農業生産法人に就業し、シニアも1人就農している。

その他、商品価値のないお茶っぱを茶風呂用に旅館に売り込んだり、過疎高齢化でもがれずに腐るのを待っていた夏みかんをパン屋に売り込み、夏みかんをまるごと使ったパンとして活用してもらうなど、もったいない農産物の様々なマッチングを行っている。

今年度は、中国四国農政局と協働で農村コミュニティ再生・活性化支援事業にも取り組み、E-learningシステムを活用して、農業講座をインターネットで発信。都市にいながら農業を学び、農村で実習を行うなど、都市との循環を促し、定住や就農に結びつく取組を行う。現在では、活動を山口県内にとどめず広域に展開し、島根県東出雲町野呂地区で、島根大学の学生を中心にNOL0耕作隊が設立。食と農のビジネスインキュベーションのろNOL0を立ち上げ、ブルーベリーの栽培や農作業研修講座などを行っている。

活動の規模

項目	H13	H14	H15	H16	H17
売り上げ		2,800	5,500	5,700	5,900
解説	単位：千円 隊員に支払われる有償ボランティア料は除く				
雇用人数		1,000	1,000	2,000	2,000
解説	単位：人 有償ボランティア数（年間延べ人数）				

活用している地域資源

・若者のパワー（大学生、社会人）

農業に関心のある若者は多い。物覚えがよく、指示に素直に従い、機動力のある若者を、人手不足の農家に送り込んでいる。

・シニアのパワー（定年退職者、主婦、退職予備軍）

学生と違い、平日も定期的に農作業ができ、豊富な社会経験から、自分で考え、農家の役に立つために行動しようとするシニアを、人手不足の農家に送り込んでいる。

・農家の知恵（山口市、宇部市、秋芳町など山口県全域）

知恵の宝庫である農家より指導を受け、若者やシニアや就農希望者が農業への理解を深め、技術を身につけていくことができる。

・荒廃予定農地（宇部市の茶園67aなど）

過疎高齢化で増える荒廃を余儀なくされる農地で生産活動を行い、地域の農村景観を守り、農業を体験する学習の場として、生産の場として活用している。

・もったいない農産物（宇部市の茶、秋芳町の梨、萩市の夏みかんなど）

捨てられていたもったいない農産物の商品価値を見出し、地域に還元されるよう商品開発と流通の手助けを行っている。

地域活性化のポイント

農業に関心のある若者が、農家を元気づけ、意欲の向上させる。また、シニアは年間を通じて農家と共に農作業を行うことで、自分の力で作物を育てている気分を味わい、生産活動に貢献するだけでなく、やりがい・生きがいの創出につながっている。また、農作業の体験を通じて、実際に就農・就業に結びついた例も出てきている。

年間2,000ものボランティア雇用と農家と消費者・都市住民の交流は、**地域の仕事づくりと、農業に対する理解促進と地元農産物への愛着につながり、地産地消を促している。**

もったいない農産物の活用と商品開発は、農産物の魅力の再発見につながっている。

E-learningシステムによる農業講座は、地方から農村のよさを発信し、都会にいながらにして農業を学ぶだけでなく、**現地の受入れ先に足を運ぶきっかけづくりとなり、都市と農村の循環を促し、就農・定住につながっている。**

事業の今後の展開方向

より豊かなライフスタイルの提案を目指し、農村地域における就農・就業並びにボランティア雇用の機会創出に貢献するとともに、本隊の援農先農家をネットワークでつなぐことで、E-learningシステムによる都市からの農業体験希望者の受入農家を増やし、農村への就農や定住を促進していく。さらに、本隊が管理している農地も、体験交流型の場として位置づけ、受入を積極的に行う。

もったいない農産物の加工は地元企業と連携して商品開発を行い、自らも地元の食材を活用した農村レストランを展開し、地産地消を進めながら、都市をマーケットに農村のよさを発信していく。

このように、生産から加工・流通・体験・観光にまたがる多角的展開を進めることとしている。

